

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、まことに、ありがとうございます。月間通信 9月号をお送り致しました。何卒、よろしくお願い致します。



20 数年前、ヨーロッパを旅した。確か友人がパン屋を始めるので、視察に行くので着いて来ないか、という誘いだった。倫敦を初め 9 日間も行くと言うので、それは無理だから英国から仏国に移動したところで合流すると言うと、『ほなパリ駅前のホテルで会おう』ということになった。軽く言うけれど、当時は自分の言語の通じない地に行く事は不慣れだった。

関空からは無事飛行機に乗り込んだ。阿蘭陀でトランジットが必要な便の組み立てだった。知らない空港で、いつ搭乗口が変更になるかも分からないので、ミスしない為にひとつ遅い便を組んでくれていた。

Schiphol という空港だった。おかげで 2~3 時間の猶予はあり余裕たっぷりの気分。途中自分は 100% の確信を持って歩いていて、分かり切っているのに、向こうから歩いて来た CA のお姉さんに確認の無駄話をするほどだった。

今思えば、こんなに空港内で歩いたのは、国際線から EU という国内線まで移動していたのかも知れない。それならば次に起こることも納得できる。30 分程度歩いて、目的の Gate まで辿り着いた。長い飛行時間で疲れている筈なのに、何故かとても元気だった。

で、無事、巴里の Charles-de-Gaulle こんな文字の羅列だったかな、到着して、ひとの流れに付いて歩いていると、何と Immigration も無くて、迎えの人でゴッタ返すところに出してしまった。これや不味いと思った。何故なら仏国入国のスタンプをパスポートに捺してもらわにや密入国になると思ったからだ。それで戻ろうと思ったが、戻るルートが分からない。探していると、事務所があり、その向こうに出口を出る前の記憶している通路が見える。だけど、其処に繋がるルートが無い。それやある訳が無い。ここで 1 時間近くウロウロしていた。

それで覚悟を決めて、そのみんなが仕事をしている事務所の通路を平然とした態度で、突き抜ける事にした。中ほどまで誰にも気づかれる事なく歩けたが、そこで男性が気づき何やら『オ～、アンタドコニイクノ』てなことを言ったんだろう、背後から声が聞こえた。その声に反応した前方の数人が一斉に自分に視線を向けた。こっちは万策尽きて強行突破しようとしているので、此処で怯む訳にはいかない。そのまま元の通路まで戻った。

そこで、もう一度逆に進んでみたが、やはりイミグレーションへの看板は見つからない。仕方が無いので、また引き返しそのまま外に出る事にした。何だか、もうどうでも良くなって来て、自分の進む道だけに集中して Taxi の文字を探した。探したが見つけられない。空港職員らしきお姉さんに Taxistand は何処だと聞いたら応えてくれた。

丁度、客を降ろしたばかりのタクシーがいた。持っていたメモ紙のホテルを示し、此処に行けるかと聞くと、『イクヨ』と返事をしてくれた。それで、乗り込んでホテルがある巴里北駅の広場に向かって走り出した。

途中、なかなか車が走れない渋滞に巻き込まれた。タクシーが進まない分、果たして目的地は正確にドラ

イバーに伝わっているのか不安に駆られ、どのように確認をしようかと考え始めた。

目的地は巴里北駅だ。このメモ紙には GALE DU NORD と書いてあった。記憶を呼び覚ましてみると、大阪駅に GALE (ギャレ) なるショッピングモールがあることを思い出した。NORD はフランス語で『ノウド』と発音する事は、事前に調べておいたので、ひと声『ギャレ ドウ ノウド』と運転席に向かって叫んでみた。そうすると、すぐさま『ギャル ドウ ノウド』と叫び返された。

これでひとまず安心。安心すると余裕が出て来て、今度は英語で『後、何分くらいで着くのか』と聞いてみた。そうするとドライバーは怒った調子で『オマエハ、マエガミエナイノカ』と言って来た。Crowded って単語を混ぜて、要は『シカタネエダロウ』と言っているようだった。日本のタクシードライバーのように改まった感じのない人物、ショッピングモールでタム口しているような兄ちゃん、親しみが持てた。再び沈黙が続いた。遅れついでだと腹をくくって、眠ることにした。

雰囲気が変わったのに気づき目が覚めた。窓の外を見ると、どうやらもうすぐなのかドライバーも、嫌な様子から覇気が出て来ていた。ほどなく広場らしきところに入った。

ドライバーは『コノシュウイノ、ドコカニアルハズダ。イッシュウシテ、サガシテミヨウ』と言った。だから、もう一度さっきのメモ紙を見せてくれと言っている。広場の周囲は車がビッシリ駐車していた。自分もこの広場を取り囲んでいるどれかのビルが、目的のホテルだと感じた。なので『此处で結構だ、後は自分で探す』と言った。兄ちゃん、お前に探せるのかって心配している様子だったが、構わず礼を言ってタクシーを降りた。さて、右回りで探るか、左回りで探るか一瞬考えたが、行動は素早い方なので、直ぐに左回りで歩き始めた。

すると、少し前方にある古い佇まいのビルが視界に入り、直ぐに『アレダッ!』と勘が働いた。自慢じゃないが、こういうあまり意味の無い勘は鋭い。5~6 段石段を上がると右の壁に、鈍い光を放つプレートが貼ってあり、そこには見覚えのある文字が並んでいた。

入っていくとロビーの奥に『パリで会おう』と言った友人が仲間二人とソファーに座っていた。『ハロオー』とは言わないが、軽く右手を上げて、ようやく着いたと笑いかけた。トータルで 20 時間ほどの道のりも終わった。チェックインして、荷物を置いて、待っている間にお腹が空いていたのだろう、直ぐにみんなと食事に出かけた。生カキが出て来たが、美味しそうだったので食べた。

仏蘭西と伊太利亜と阿蘭陀を周る 7 日間旅だったが、今はあれらの国はどうなっているのだろう。我が国では政治リーダーを暗殺され、国家ぐるみで事実を隠ぺいされている。だけど、サハリン 2 には三井・三菱の財閥が変わらず資本を出すと報じている。自分では、この 5 年ほど前から区切っている 2025 年まで、もう少しだ。

いよいよ大詰めに差し掛かっていて、どうやら台湾海峡の西岸の国が自立、少し表現が違うか、露国と中華の国が国際資本の場に戻るまで、我が国が世界の中心国になる日が来る。それは、国際資本が今の米国覇権体制下で増殖する限界から、次の増殖への手段に移るため望んでいる体制は、ある意味日本がモデルになりそうな気がするからだ。

それは束の間の出来事かも知れないが、この間書いて来たように先進国の中で日本経済のみバブルが起こっていない。それは、かけ蕎麦が 30 年前のかけ蕎麦の価格そのまま今日も食べられる。米国では 2000 円以上する。このバブル部分は弾けさせなければならない。かと言って大きな経済混乱は困るので、台湾海峡有事で景気を刺激しながらドル価値を緩やかに下げていく事が必要となっている。

また貨幣の発効を金・資源本位制に移行するためには、各国中央銀行を私営から公営に切り替える必要がある。これらが既になっている国が日本なので、この国をモデル化するだろうと思う。

そうするとコロナ景気に沸いたように、また戦争景気に沸き、その後の数年は日本経済を中心に世界が回る。また息を吹き返すチャンスが来る。と思える。

有限会社アルファー：吉田清一郎